風水害に備えましょう!!

近年、集中豪雨や台風の大型化など、全国各地に大きな被害をもたらしています。災害はどこで起こるかわかりません。被害を最小限にくい止めるために、災害に備えておくことが大切です。これから梅雨や台風のシーズンを迎えます。家族で日ごろからの備えを、もう一度確認しておきましょう。

■安全対策課（内線217）

風水害対策の基本は情報から

集中豪雨や台風は、襲来時期や規模をある程度予測することができます。テレビやラジオの最新の気象情報を確認しましょう。市では、**ホームページ**や**防災情報メール**、**FMおおむら（76・3メガヘルツ）**などで情報をお知らせします。

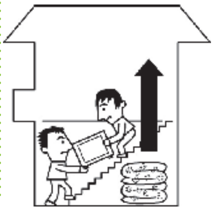
大雨のとき

集中豪雨

集中豪雨とは、短時間のうちに狭い地域に集中して降る豪雨のことです。発生の予測が難しく、急激に状況が変化するため、少しでも異常や危険を感じたら、すぐに避難しましょう。

【屋内では】

床下・床上浸水の危険があります。家具や貴重品などを2階へ移動しておきましょう。



【車の運転中は】

豪雨で視界が悪く、操作ができなくなる危険があります。水が少ない場所を選びながら、ゆっくりと高台へ避難しましょう。

【河原では】

急な増水や土砂災害の危険があります。川などには近づかないようにしましょう。

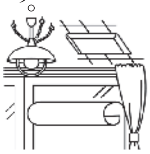
風が強いとき

台風

雨や風が強くなってから対策を始めると危険が伴います。台風が接近するときは早めに準備しましょう。

【屋内では】

風圧や飛来物で窓ガラスが割れ、破片が吹き込む危険があります。飛散防止フィルムをはり、カーテンを閉めておきましょう。



【路上では】

看板が飛んだり、街路樹が倒れたりする危険があるので、近くの建物に避難しましょう。ただし、大雨の場合は、地下室には逃げ込まないようにしましょう。

【海辺では】

海への転落や高波、高潮に巻き込まれる危険があります。海岸沿いには近寄らないようにしましょう。

土砂災害は前兆に注意を

土砂災害

土砂災害は発生すると大きな被害を引き起こします。長雨や大雨のときに次のような現象を確認したら、早めに避難し、防災機関に通報しましょう。

【がけ崩れ】

・がけから水が噴出する
・地下水やわき水が止まる
・斜面のひび割れ、変形がある
・小石がぱらぱら落ちてくる
・がけから音がする
・異様なにおいがする

【土石流】

・近くで山崩れなどが発生している
・立木の裂ける音や岩が流れる音がする
・雨が降り続いているのに、川の水位が下がる
・川の水が濁ったり、木が流れてくる

【地すべり】

・地鳴り、家鳴りがする
・根が切れる音がする
・地面が振動やひび割れする
・家やよう壁、道路に亀裂が入る

インタビュー

高めよう〜地域防災力

大村消防署予防設備課　一瀬　修　課長

時と場所を選ばず襲ってくる災害。

その時、その場所にあなたの大切な家族が一緒にいるとは限りません。たとえ一緒であったとしても、災害は容赦なく私たちに向かってきます。

人知を越えて発生し、尊い命や財産など多くの被害をもたらす近年の災害は、そのことを物語っており、建物の耐震対策、非常持ち出し品の準備、避難場所の確認など日頃から防災への意識を持つことが大切です。

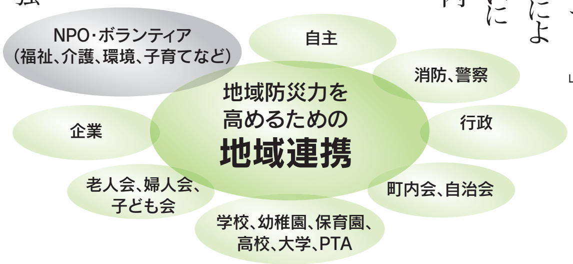
また、梅雨時期などは、短時間に猛烈な雨が襲うゲリラ豪雨も頻発しており、気象の変化にも十分な注意が必要となります。

災害時の被害を最小限に抑えるための最大の防御、それは地域防災力です。

大村市でも、「安全・安心まちづくり」を目指し、地域に密着した消防団による災害対応訓練や、住民が互いに支え合う自主防災組織も市内72町内で結成され、防災訓練など自治体と連携した活動が行われています。

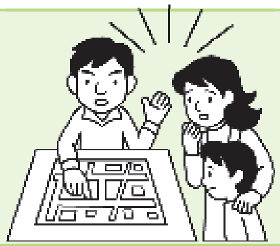
防災への備えは、平時からの地域づくりでもあります。

少子高齢化社会の中で、私たち一人ひとりが防災対応の担い手であることを再認識して、「できること」と「できないこと」を補い合える、災害に強いまちづくりを目指しましょう。



避難ルートを歩いてみよう

自宅から避難場所までの道のりを実際に歩いてみましょう。川のそばやがけに近い道、橋などはできるだけ避け、安全なルートを探し、その所要時間を確認しましょう。災害時の状況によっては、道路が通行止めになる可能性もあるので、複数のルートを見つけておくと安心です。



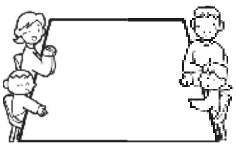
避難場所一覧

地区	避難場所
三　浦	三浦小学校 三浦出張所
鈴　田	鈴田小学校 鈴田出張所
大　村	東大村小学校 旭が丘小学校 大村小学校 三城小学校 玖島中学校 大村中学校 県立大村城南高校 県立大村高校 県立大村特別支援学校 体育文化センター （シーハットおおむら） 市役所 市民会館 武道館 こどもセンター
西大村	中央小学校 放虎原小学校 西大村小学校 西大村中学校 桜が原中学校 県立大村工業高校 県央農協大村中央支店 総合福祉センター 本経寺 正法寺 中地区住民センター 西大村地区コミセン 池田公民館 池田湖畔会館 大村郵便局
竹　松	富の原小学校 竹松小学校 県立ろう学校 竹松出張所 郡地区公民館
萱　瀬	黒木小学校 萱瀬ダム建設記念会館 萱瀬小学校 萱瀬中学校 萱瀬出張所
福　重	福重小学校 郡中学校 福重出張所
松　原	松原小学校 松原出張所

防災は家族で、地域で！

定期的に家庭で防災について話し合いましょう

災害時には、家族全員が協力し合うことが求められます。そのために、日ごろから家族で防災について話し合う機会を持ちましょう。防災会議は一度で終わりにするのではなく、月に一回程度、定期的に開催することが大切です。



【一人ひとりの役割分担を決める】

・いざというとき誰が何をするのかを決めておく
・高齢者や乳幼児などがいる場合は、誰が支援の中心となるか話し合う

【家屋の危険箇所をチェックする】

・アンテナやプロパンガスを固定する
・ブロック塀のひび割れや傾きがあれば修理する
・土中にしっかりした基礎部分や鉄筋がないものは補強する

【家の中の危険箇所をチェックする】

・窓ガラスに飛散防止フィルムをはる
・避難路を確保するため、出入口にはできるだけ荷物を置かない

【災害時の連絡方法や避難場所を確認】

・どこに避難すべきかを確認する
・家族が離ればなれになったときの連絡方法を決めておく

非常持ち出し品のチェックと入れ替え

非常持出品

ヘルメット・防災ずきん……必ず家族の人数分用意

懐中電灯……できれば一人に一つずつ用意

携帯ラジオ……小型で軽く、FMとAMの両方聞けるもの

予備電池……懐中電灯、携帯ラジオ用に多めに準備

非常食……乾パンやアルファ米など火を通さずに食べられるもの

水……持ち運びに便利なペットボトル入りのもの

救急医療品・常備薬……キズ薬、ばんそうこう、解熱剤、かぜ薬、胃腸薬、常備薬など

貴重品……預金通帳、健康保険証、免許証など、現金は紙幣だけでなく公衆電話用に10円玉を準備

生活用品……衣類、軍手、ナイフ、ライター、缶切り、簡易トイレなど

非常備蓄品

非常食……そのまま食べられるか、簡単な調理で食べられるもの

水……飲料水と生活用水を用意する。飲料水は、一人一日3リットルが目安

生活用品……毛布、衣類、洗面用具などそれぞれ生活に合わせて準備

工具類……家屋が倒壊した場合などに備えて、救出活動に使える工具を準備

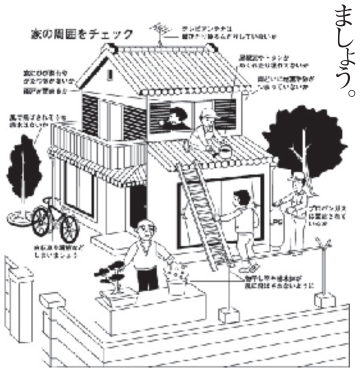
家族構成に合わせた準備を!!

非常持出品・非常備蓄品は、マニュアル通りのものを人数分そろえるだけではなく、家族構成に合わせて必要なものを考えてみましょう。子どもは、年齢によって必要なものが変わっていきます。定期的に見直すことも大切です。

自主防災組織を作りましょう!!

災害が起きたときに必要な助けや支援には「自助」「共助」「公助」の3つがあります。その中でも、住民自身が協力して自分たちの身を守る「共助」が防災の要といえます。災害時、一刻の予断を許さない状況では、自分たちで自らの身の安全を守り、隣近所の人たちと協力して被害にあった人たちを救助・救援しなければなりません。そのため、町内会などで組織される自主防災組織の役割が大切です。

自助



自助とは、「自らの身は自分で守る」ということです。普段から災害に関する知識を身につけ、災害を正しく理解し、何を備えておけばよいかを考え、災害に対する準備をしましょう。

共助

共助とは、「自分たちの住んでいる地域は自分たちで守る」ということです。これが地域を守る、最も効果的な方法です。災害時に頼りになるのは、隣近所の人たちです。普段から近所付き合いを大切にしておけば、近隣住民が何かあったときに助けてくれます。また、あなた自信が隣近所の人たちを助けに行けます。地域で自主防災組織を結成し地域の特性を把握した上で、住民同士で災害に備えましょう。

公助

公助とは、自治体の機関（消防、警察など）、消防団、自衛隊などの活動のことです。市はもちろん、各機関とも、災害の発生からできるだけ早く、すべての能力を応急対策活動にあてられるよう備えています。

自主防災組織がなぜ必要なのでしょうか?

大規模災害時には、交通網の寸断、通信手段の混乱、同時多発の火災など、消防や警察なども、同時にすべての現場に向かうことはできません。そのような事態に備え、地域住民が連携して地域の被害を最小限に抑えることが自主防災組織の役割です。あなたのまちを守るために自主防災組織を結成して積極的に参加し、「災害に強いまち」をつくりあげましょう。

インタビュー

わがまちの自主防災組織

池田自主防災会長
塩塚（しおつか） 八千穂（やちお）さん

私たちの住む池田町は、池田湖公園を囲む形で集落があり、自然災害とは無縁の地区と思っていました。

ところが、平成7年の阪神淡路大震災のあと、次々と発生する地震や台風、ゲリラ豪雨の惨状を見て、私たちも「自分たちのまちは自分たちで守る」必要性を強く感じるようになりました。

私たちは、自主防災組織づくりについて会議を重ね、市の安全対策課や先進的に活動していた町内会から指導を受けました。研修会などを行って、町民の防災に対する意識向上を高め、平成22年度に「池田町内会自主防災会」を編成しました。

以降、毎年1回「総合防災訓練」や「災害時要援護者の支援」を行っています。

訓練を通して感じることは、隣近所でお互いに助け合える「人とのつながり」を常に作っておくことの大切さです。防災訓練に参加し、普段顔を合わせない人たちも、同じ体験を行うことで、コミュニケーションや新しいつながりが生まれると思います。

いつ災害が襲ってくるかわかりません。私たち一人ひとりが防災への意識を持ち、日ごろから備えておくことが必要です。自主防災組織の活動は、そのいい機会を与えてくれます。